

大和魂再生

ニッポンの敵

酒井信彦



◆ 3 ◆

準備委員会」の事務所を持つ趙東という人物が、「沖縄の人間は中華民族に含まれる」と主張していることである。この

さかい・のぶひこ 元東京大学教授。1943年、神奈川県生まれ。70年3月、東大大学院人文科学研究科修士課程修了。同年4月、東大史料編纂所に勤務し、「大日本史料」(11編・10編)の編纂に従事する一方、アジアの民族問題などを中心に研究する。2006年3月、定年退職。現在、明治学院大学非常勤講師や、月刊誌でコラムを執筆する。著書に「虐日偽善に狂う朝日新聞」(日新報道)など。

沖縄併合論・独立論の異常

日本政府が昨年9月、沖縄県・尖閣諸島を国有化して以来、急速に中国の軍事的威嚇行動が活発化し、ますますエスカレートしている。こうしたなか、中国は尖閣を自国の「核心的利益」であると明言した。これは日本の領土に対する、侵略宣言に他ならない。

理屈でいけば、沖縄も「中華の領域」となり、中国に併合できるといふ主張につながる。一方、沖縄においては沖縄独立論が台頭し、5月15日には「琉球民族独立総合研究学会」が設立された。

中国ではすでに、沖縄併合論が熱心に語られているのに、「あまりにも愚かだ」と言っしかない。いくら独立しても中国に侵略・併合されてしまふことは、チベットやウイグルなどの例を見れば、明白ではないか。中国の宮殿をまねて作られたとされる、首里城の中心的建築である正殿(せいでん)も、靴を脱いで入っており、中国のような「土足文化」ではない。正殿の正面には大きな「唐破風」が目につくが、これは名前とは裏腹に、日本建築独自のものである。

誤りで意図的に作られたもの 中国の侵略宣言を利する

尖閣は沖縄の一部だが、中国は最近、沖縄全体についても、侵略の野心を隠さなくなっている。中国の民間では以前から、不当極まる「沖縄併合論」が出現し、ネットの世界では堂々と流布していた。それについては、産経新聞で5月3日、河崎真澄記者が長文の記事を書き、警告を発している。

この記事で注目すべきは、広東省・深圳に「中華民族琉球特別自治区



沖縄独立論の根拠となるのは、「沖縄の人間は日本民族とは異なる」という考え方である。しかし、この考え方は、完全な誤りであり、意図的に作られたものである。それに対する反証は、いくつも挙げることができる。

まず、文化の基本である言語であるが、沖縄の言葉はあくまでも、日本固有の言語である「大和言葉」の那覇・首里城での「琉球舞踏の宴」。こうした文化も含めて、沖縄は日本である。

江戸時代には、沖縄は清国と薩摩藩、すなわち日本に両属していたとする説明があるが、これも正確ではない。

清との関係は朝貢貿易を行うための形式的な関係であるが、薩摩藩は沖縄を実質的に支配していた。江戸時代に幕府の命令により、国ごとに作られた「国絵図」も、沖縄の絵図は薩摩藩によって詳細に作られた。要するに、沖縄は明らかに日本そのものである。